

本講義資料のご利用にあたって

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

著作権が東京大学の教員等に帰属する著作物については、非営利かつ教育的な目的に限り再利用することができます。

ご利用にあたっては、以下のクレジットを明記してください。

クレジット：

UTokyo Online Education 学術フロンティア講義 2022 張 政遠



学術フロンティア講義
30年後の世界へ
「共生」を問う

先住民族との共生

張政遠（総合文化研究科）

My background

- 略歴
 - 香港生まれ、香港育ち
 - 香港中文大学(BA, MPhil)
 - 東北大学(MA, PhD)
- 研究
 - 他者：西田幾多郎『善の研究』、「私と汝」
 - 巡礼と物語：和辻哲郎『古寺巡礼』、野家啓一『物語の哲学』
 - アイヌの風土：和辻哲郎『風土』、ベルク『風土の日本』

Chaos	渾沌、溟涬、鴻荒、
Character	品格、性質、行狀、
Characteristic	特質、
Chastity	貞節、
Cheirocracy	舉手政治、
Chemistry	化學、
Choice	擇擇、
Chrematistics	貨殖論、
Christianity	基督教、
Circulation	融通(財)
<i>Circulus in definiendo</i>	循環定義(論)
<i>Circulus in probando</i>	循環證據(論)
Circumstance	境遇、
Civility	禮貌、撙節、
Civilization	開化、
Class	部、
Classification	彙類法、
Clear	著見、明白、瞭然、
Clever	銳敏、伶俐、聰明、
Coercion	抑制、強壓、催逼、管束、
Coexistence	俱有 <small>按、俱有之字、出千俱舍論、又唐杜甫詩、向羈窺數公、</small> 用共存之字可、

sahabhūhetu. (T. lhan cig 'byung ba'i rgyu; C. juyouyin; J. kuuin; K. kuyuin 俱有因). In Sanskrit, the “coexistent cause”; the second of the six types of causes (HETU) outlined in the JÑĀNAPRASTHĀNA, the central text of the SARVĀSTIVĀDA ABHIDHARMA. This type of cause refers to the fact that coexistent dharmas simultaneously condition one another, as with a great element (MAHĀBHŪTA) and its derivatives, or a specific dharma and its four conditioned characteristics (SAMSKRTALAKṢANA). This process is comparable to the coexistence of the three legs of a tripod: if any one leg is missing, the other two legs are unable to function; thus, these coexistent dharmas must all exist simultaneously, so that if one is missing, all are missing. In the case of perception, for example, the Sarvāstivāda claimed that a moment of visual perception required that the visual sense-faculty (viz., the eye; INDRIYA), the visual object, and visual consciousness all had to exist simultaneously. This interpretation of the coexistent cause is subsequently adapted as a crucial component of the YOGĀCĀRA theory of representation-only (VIJÑAPTIMĀTRATĀ).

我之曾姑爾高祖母爾祖未顯時歸爲尚書婦
朱曰新唐書王珪母李王珪傳正觀十年拜禮部尚書○修可曰
 西清詩話云唐書王珪傳珪微時母李氏嘗云子必貴但未見與
 汝游者注一日引房杜過之母曰汝貴无疑所載止此曾之子美
 是詩我之曾姑爾之高祖母則珪母杜氏非李氏也且一婦人
 誠真主於側微其事甚偉史闕而不錄
 是詩載之爲朱出號詩史信不訛也

送重表姪王琳評事使南海
鄭曰琳埋劄切水深至心曰琳今作厲十九

交友

趙曰王珪與房元齡杜如晦同學於文中子則交友可知矣

餉口

朱曰陳平門多長者車匱十一年傳餉其口於四方

家貧無供給客位但箕箒自陳剪髮鬻鬻市充杯酒

朱曰晉陶侃母常剪髮且猶食延賓客

云天下亂宜與英俊厚向竊窺數人經綸示俱有

上

王申與元齡如晦善母李喜白兒父貴然未知所与游者何如人會元齡等過某家李窺大驚曰二客公輔才後貴不疑舊注於下

長者來在門荒年自

長者來在門荒年自

篤儀頃羞頰珍寂寥人散後入怪鬢髮空吁嗟爲之

久自陳剪髮鬻鬻市充杯酒

朱曰晉陶侃母常剪髮且猶食延賓客

上

云天下亂宜與英俊厚向竊窺數人經綸示俱有

上

篤儀頃羞頰珍寂寥人散後入怪鬢髮空吁嗟爲之

久自陳剪髮鬻鬻市充杯酒

朱曰晉陶侃母常剪髮且猶食延賓客

上

長者來在門荒年自

長者來在門荒年自

先住民族との共生

(Ethnic harmony with indigenous people)

①台灣

②メキシコ

③日本

著作権等の都合により、
画像を削除しました。

Sustainable Japan Magazine
Vol. 6: Ethnic harmony: The culture of the
Ainu
https://sustainable.japantimes.com/interest_cat/vol06

Indigenous and Tribal Populations Convention, 1957

Article 1

1. This Convention applies to--

- (a) members of tribal or semi-tribal populations in independent countries whose **social and economic conditions are at a less advanced stage** than the stage reached by the other sections of the national community, and whose status is regulated wholly or partially by their own customs or traditions or by special laws or regulations;
- (b) members of tribal or semi-tribal populations in independent countries which are regarded as indigenous on account of their descent from the populations which inhabited the country, or a geographical region to which the country belongs, at the time of conquest or colonisation and which, irrespective of their legal status, **live more in conformity with the social, economic and cultural institutions of that time than with the institutions of the nation to which they belong.**

香港の場合 : indigenous inhabitants

- 基本法第 40 条 Basic Law Article 40

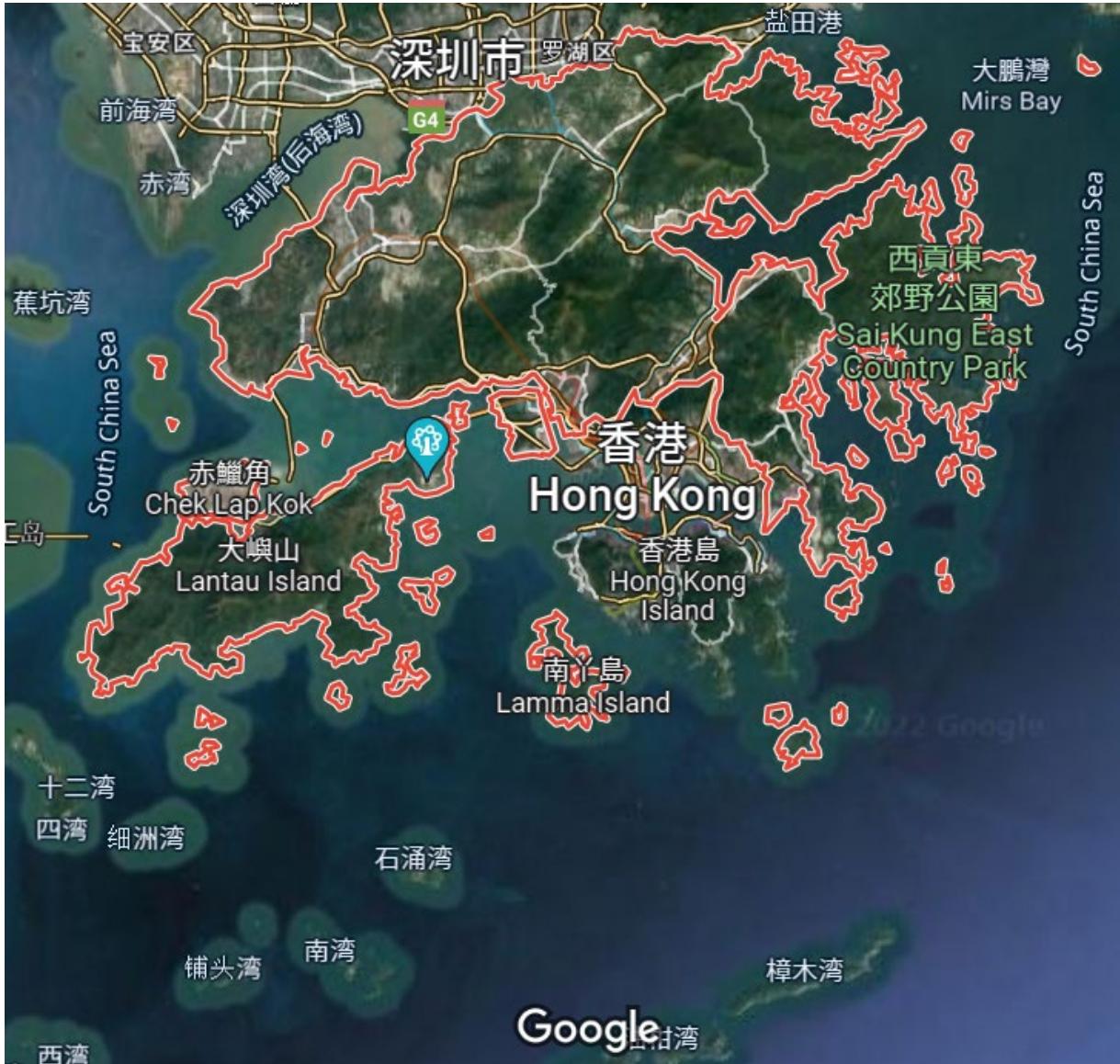
“新界”原居民的合法傳統權益受香港特別行政區的保護。

The lawful traditional rights and interests of the indigenous inhabitants of the "New Territories" shall be protected by the Hong Kong Special Administrative Region.

→ “新界”原住民の合法的な伝統的権益は香港特別行政区の保護を受けている。

“新界”原住民

- 客家（ハッカ）：原居民の約半数は客家人、最も多い
- 囲頭（ワイタウ）：「围」とは、集落の周りに築かれた城壁
- 蟹家（ダンカ）：水上人、漁師、漂泊民



Map data ©2022 Google

合法的な伝統的権益

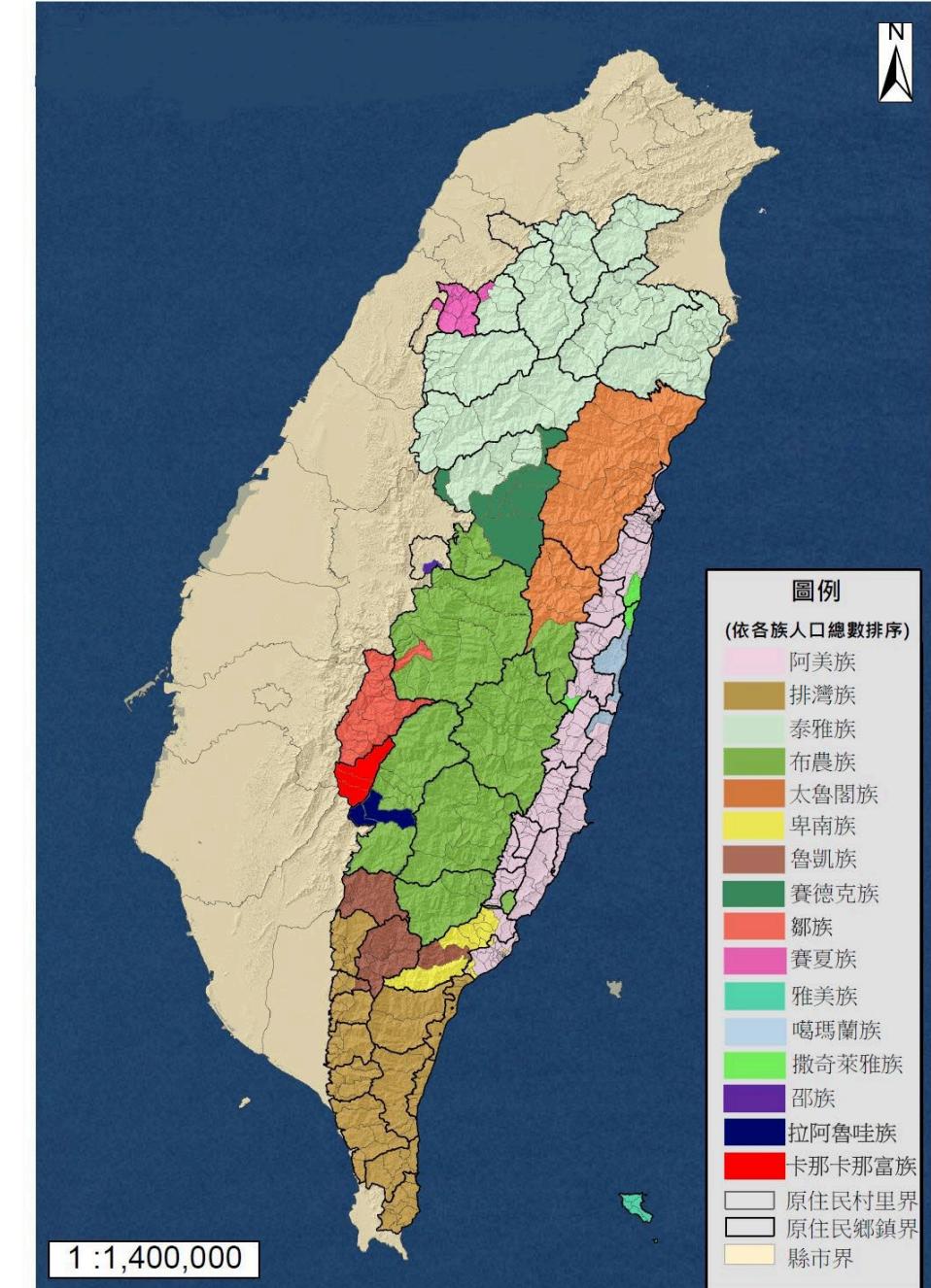
- 例：「丁権」
 - 新界（New Territoriesつまり1898年の展拓香港界址専条によってイギリスに99年間の期限で租借された地域）の村々に住んでいる原住民（男性の子孫＝丁）の土地所有権と継承権、またそれに伴う利益。
- 問題点
 - これは「伝統」か？
 - 女性の土地所有権・継承権は？
 - 原住民は「原住民族」（indigenous people）か？

①台灣

原住民族地區16族分布圖

- 阿美族、排灣族、泰雅族、布農族、太魯閣族、卑南族、魯凱族、賽德克族、鄒族、賽夏族、雅美族、噶瑪蘭族、撒奇萊雅族、邵族、拉阿魯哇族、卡那卡那富族
 - <https://indigenous-justice.president.gov.tw/Desc/28/1>

→ 客家は台湾の原住民族ではない！



事物 2016 和解

蔡英文總統が政府を代表して原住民族に謝罪

蔡英文總統代表政府向原住民族道歉文
日本語

「蔡英文總統代表政府向原住民族道歉文」日本語 原住民族歷史正義與轉型正義委員會
http://indigenous-justice.president.gov.tw/doc/apology_text/Japan.pdf

■蔡英文總統が政府を代表して原住民族に謝罪

蔡英文總統代表政府 向原住民族道歉文





「台湾通史」という本があります。序言の最初のところで、「台湾はそもそも史書が存在しない。オランダ一人が近代文明を啓蒙し、鄭氏がさらに台湾を建設し、清王朝が引き続き経営する」と書いてありました。これは典型的な漢民族の歴史観です。原住民族は数千年前から、この土地で豊かな文化と知恵があり、代々伝わってきています。しかし、我々はただ強いエスニックグループの視野から歴史を書くしかできません。そのため、私が政府を代表して、原住民族の皆さんにお詫びします。

http://indigenous-justice.president.gov.tw/doc/apology_text/Japan.pdf

有一本書叫做「台灣通史」。它的序言的第一段提到：「台灣固無史也。荷人啟之，鄭氏作之，清代營之。」。這就是典型的漢人史觀。原住民族，早在幾千年前，就在這塊土地上，有豐富的文化和智慧，代代相傳。不過，我們只會用強勢族群的角度來書寫歷史，為此，我代表政府向原住民族道歉。

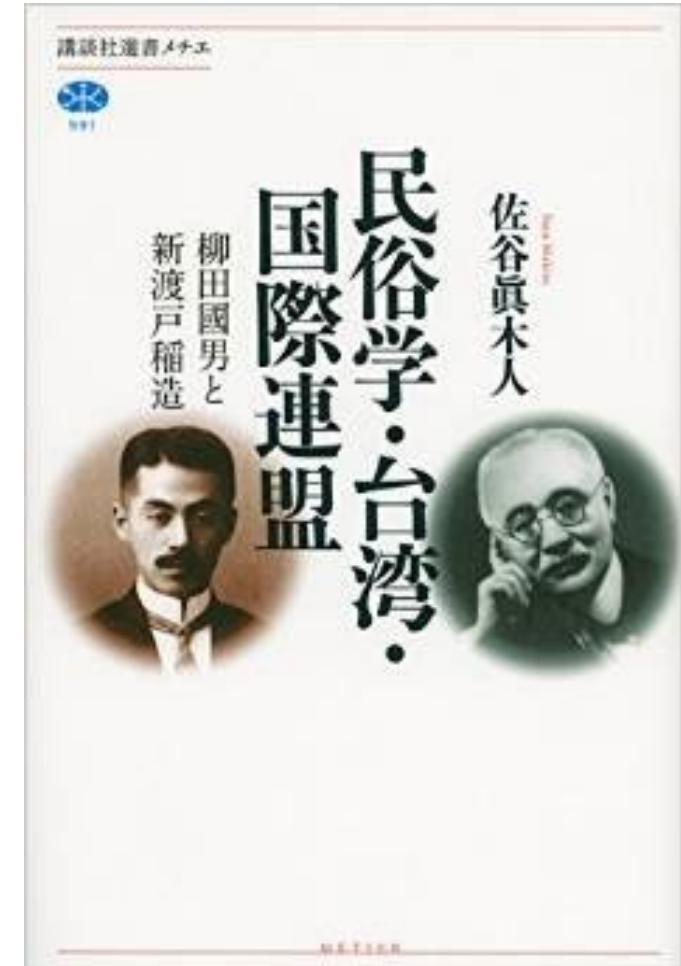
There is a book called "The General History of Taiwan" published in 1920. In its foreword are these words: "Taiwan had no history. The Dutch pioneered it, the Koxinga Kingdom built it, and the Qing Empire managed it." This is a typical Han view of history. The truth is that indigenous peoples have been here for thousands of years, with rich culture and wisdom that have been passed down through generations. But we only know to write history from the perspective of the dominant. For this, I apologize to the indigenous peoples on behalf of the government.

An official apology issued by President Tsai (full text)

<https://indigenous-justice.president.gov.tw/EN/Page/42>

台湾の「日治時代」(1895-1945)

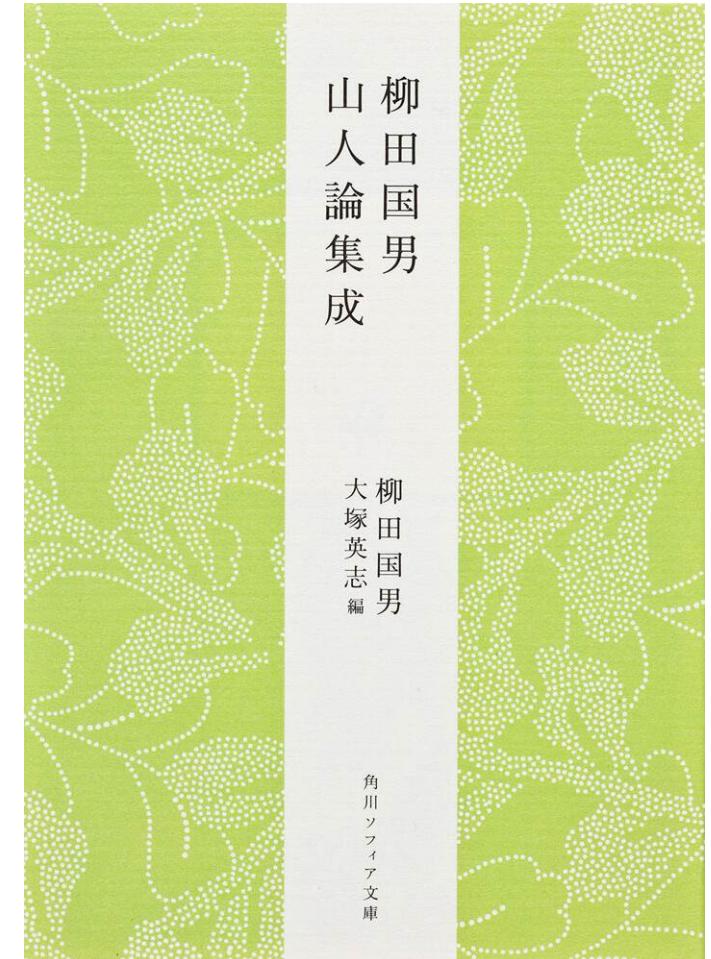
- 台灣は日本にとって最初に獲得した植民地であり、日本が国内に抱えこんだ異文化であった。日本の国内に台灣をどのように位置づけるかは、政治的であるとともに文化的な問題でもあった。「台灣とはなにか」という問いは、「日本とはなにか」という問いを必然的に照らし返している。
 - 佐谷真木人『民俗学・台灣・国際連盟』講談社、2015年、8頁。



柳田国男 「九州南部地方の民風」

- 日本では、古代においても、中世において、武士は山地に住んで平地を制御したのであります。古代には九州の山中にすこぶる獰惡の人種が住んで居りました。歴史を見ると肥前の基肆郡、豊後の大野郡、肥後の菊池郡というような地方に、山地を囲んで所々に城がありまするのは、皆この山地の蛮民に対して備えたる**隘勇線（あいゆうせん）**であります。

柳田国男『柳田国男山人論集成』角川ソフィア文庫、2013年、66頁



「天狗の話」

- 中学校の歴史では日本の先住民は残らず北の方へ退いたように書いてあるが、根拠のないことである。佐伯と土蜘と国巣と蝦夷と同じか別かは別問題として、これらの先住民の子孫は恋々としてなかなかこの島を見捨てはせぬ。奥羽六県は少なくも頼朝の時代までは立派な生蛮地であった。アイヌ語の地名は今でも半分上である。またこの方面の**隘勇線**より以内にも後世まで生蛮が居った。

柳田国男『柳田国男山人論集成』角川ソフィア文庫、2013年、50頁

「山民の生活」

- ・一寸人は蝦夷を追いこくってその空地へ日本人を入れたかのように想像しておりますが、彼らと雜居することやや久しくなければ決してこれらの名詞〔ヤ、ヤツ、ヤト→アイヌ語のヤチ=湿地〕を受け伝えるはずがありません。従って全国の蝦夷がごとごとく北海道へ立ち退いたことあたかも台灣の**隘勇線**の前身が生蕃を押し出すと同じかったとは思われません。

柳田国男『柳田国男山人論集成』角川ソフィア文庫、2013年、88頁



隘勇

清代在漢人與原住民交界地帶設置的警戒與防禦措施。臺灣「防番」之設施，始於鄭成功創設之屯田，1766年（乾隆31年）設立理番分府後，由理番同知管理隘寮，充任隘番等事，1788年設立隘勇，沿山番界設土牛溝，在要衝地帶配置隘丁、設立隘寮，做為對番人警戒、防禦措施。

一般依設隘的機關與守隘經費的來源，將隘分為官隘、民隘；學者戴炎輝將官隘分為：全官隘、官四民六隘、屯隘、隘丁團體隘四種，同為官方之防番機關，卻有各種因時因地而設置與管理的方式，隘的領導者為隘首。民隘為官方監督下自設自理之隘，分為公隘與墾戶隘（私隘）。隘丁來源主要為漢人或熟番，清末亦有歸化生番；若以熟番守隘，多半以契約方式進行。當官方剿番時，常募集隘丁以增強兵力，鄉紳富商多半響應，出資招募勇丁協助剿番。由於隘勇近山警戒，也常因工作之便，越界私墾、伐樟熬腦。

臺灣巡撫劉銘傳主政時期，因隘制名存實亡，便於1886年（光緒12年）廢除隘制、隘丁，創立隘勇制，直隸於臺灣巡撫。隘勇的主要任務在保護佃民以維持拓墾地，並負有開疆拓土、逢山開路等任務。

日治初期，地方鄉紳富商向當局請求，希望保留所屬的私隘隘勇，由於雲林地方土匪討伐之際，隘勇團體為日軍效力，特別是對於樟腦業者的保護，頗有功勞，故私設隘勇受臺灣總督府當局的認可。自1896年（明治29年）10月1日起，臺中縣（註1）管轄的區域，每月對隘勇團體補助2,000圓。這種對隘勇團體傭使方式的制定，成為日治時期隘勇制度的發端。



國立臺灣大學圖書館
NATIONAL TAIWAN UNIVERSITY LIBRARY

隘勇線前進並蕃社膺懲情況 其一(射擊戰) Provided by National Taiwan University Library
<https://dl.lib.ntu.edu.tw/s/photo/item/482846#?c=&m=&s=&cv=&xywh=-56%2C-48%2C1889%2C1249>

孫大川：《夾縫中的族群建構》(2010)



Paelabang Danapan

林德義 [CC BY-SA 4.0](#),
via Wikimedia Commons

例：鳥居龍藏(1870-1853)

- 鳥居龍藏以下日本歷代的人類學者或田野工作者，挾其旺盛的求知慾，上山下海，為原住民存留了寶貴的歷史、文化資料。但也由於他們大都只是觀察者、研究者、記錄者，有關原住民自身歷史建構的問題非其關心之所在，因而在他們筆下，原住民頂多只能是「學術的存在」。（孫大川『夾縫中的族群建構』p.86）
- 鳥居龍藏以下、日本の人類学者やフィールドワーカーは、旺盛な知識欲で山や海に出かけ、先住民族の貴重な歴史的・文化的資料を保存してきた。しかし、彼らは觀察者、研究者、記録者であったため、先住民族自身の歴史の構築には関心がなく、彼らの書く先住住民はせいぜい「学問的存在」にすぎなかった。



氏子, [CC BY-SA 4.0](#), via Wikimedia Commons

鳥居による記録

「當時的臺灣，在平地旅行比跋涉山地還要危險，不過，黥面的泰雅族太魯閣群的部落，還是危險地區。臺灣的平地是福建、廣東移民聚居之地，他們不喜歡日本人在臺灣設立總督府統治他們，處處都有土匪出沒，因此平地的調查旅行是相當危險的。但是，山上的原住氏恰恰相反，他們過去一直不喜歡漢人的統治，抗爭不止，現在忽然有日本人來到臺灣，他們對新政府寄予厚望。尤其是總督府已經在原住民區成設立撫蕃所，很親切地照顧原住民，原住民對日本政府表示好感，因此我們在原住民的山區旅行，並沒有什麼危險。」（孫大川『夾縫中的族群建構』p.146）

「当時の台湾では、山間部の旅よりも平地の旅の方が危険だった。しかし、平地には平たく、いる台湾賊住人のもんがる。見山日本で倒して設が先住民の中を一しているタロコ族の地域は、やは民った人待ち寄所我々が先住民の山の中を日本で統治を嫌行つたが、福建や危険な東南戦に大総督府が撫番所を設けてきた。たを期がつて、我々が先住民の山の中を旅することに危険はなかった。」

人類学研究

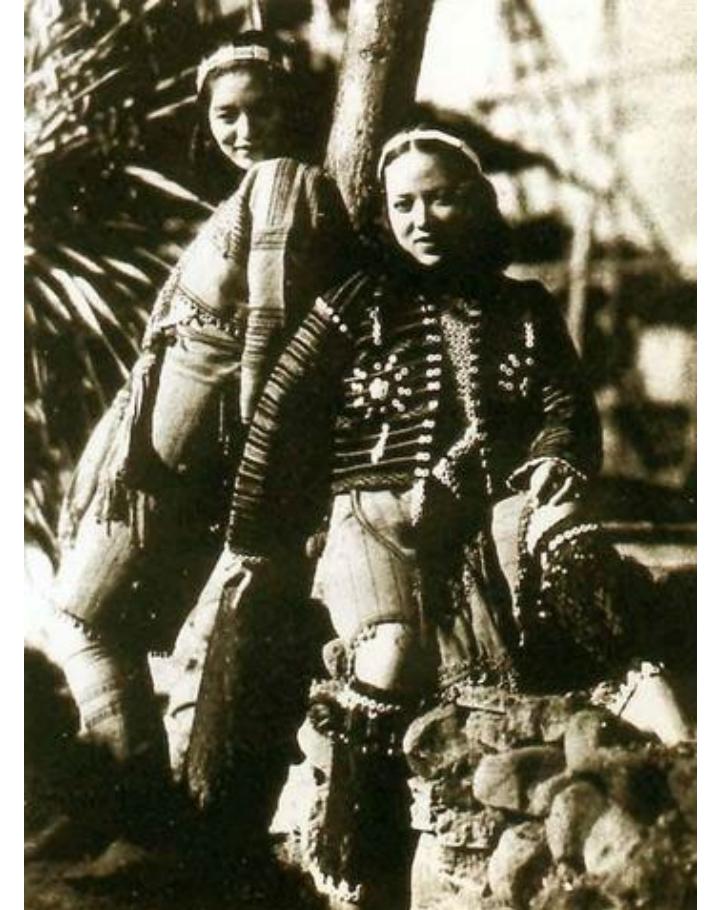
- 日本據臺的五十年當中，對原住民歷史敘述的方式有一個新的發展，即殖民地政府社會對原住民社會田野調查的全面展開。原住民逐漸成為人類學家筆下的存在，其歷史敘述也充滿修辭、體質、考古、語言學、工藝技術、親屬制度、生命禮俗、宗教儀式、族群識等等，彷彿一層層分類有秩序的多寶格，將原住民一一「安放」在那裡。（孫大川『夾縫中的族群建構』p.86）
- 日本統治時代の50年間に、先住民族の歴史を語る上で新たな展開があった。すなわち、植民地政府社会によると、先住民族はトドワーク、体質、考古学、言語学、工芸などに満ちている多重塔のように、先住民族がこの多重塔に「置かれている」。

皇民化

- 日本殖民政府將傳統的原住民交給人類學者從事靜態之學術研究，卻將生活中的原住民置於其「改造」、「皇民化」的政策設計中。許多跡象顯示，日本政府相當程度地移轉了原住民各民族的認同對象，使其超越各民族的忠誠共同語言——日語——成為溝通、傳播的新工具。（孫大川『夾縫中的族群建構』p.166）
- 日本の植民地政府は、伝統的な先住民族を人類学者の手に委ね、静態の学術研究に従事させたが、先住民族を「変革」と「皇民化」の政策設計の渦中に置いたのが、のである。日本政府が植民地帝国へり、忠誠心を身につけたうえで、先住民族のアイデンティティをかなり変化させたうえで、日本語を初めて学び、新たなコミュニケーション・発信の道具となり、また、普及教育の導入により、先住民族を超えた共通語であるとした。

サヨンの鐘

- 太平洋戰爭爆發之後，為有效動員台灣原住民投入戰場，大力宣揚愛國主義，渲染高砂義勇軍的勇敢行為。「愛國少女沙鶯（サヨン）之鐘」之炒作甚至拍成電影，即為其典型的例子。此時，有關原住民的傳播，大致是以服務帝國為目的。（孫大川『夾縫中的族群建構』p.166）
- 太平洋戦争勃発後、台湾先住民族を効果的に動員するため、高砂義勇軍の勇姿が宣伝少女の象徴される。それを象徴するのが、「愛国少女のサヨンの鐘」の宣伝と映画化である。この頃、先住民族に関するメディアは主に帝国に貢献することを目的としていた。



母語喪失

- 嚴格地說，台灣原住民母語之迅速喪失，乃是近四十年來的事。日據時代原住民的社會化，固然也有若干深刻的變化，然而一般說來，當時許多部落的社會結構和風俗習慣等並徹底的摧毀。直到一九四九年以後，情況才以制度化的方式全盤惡化。這當然和國民黨的原住民政策有關。（孫大川『夾縫中的族群建構』p.10）
- 厳密に言えば、台湾先住民族の母語が急速に失われたのは、ここ40年ほどのことである。日本統治時代の先住民族の社会化は、もちろん多くの大きな変化があったが、一般的に言って、多くの部族の社会構造や習慣が完全に破壊されたわけではなかった。状況が制度的に悪化したのは、1949年以降である。これはもちろん、国民党の先住民族政策と関係がある。

平地化

- 不同於日據時代，國民黨政府的原住民政策採取的是一個比較積極的輔導(干預？)自從民國四十二年，台灣省政府頒布「促進山地行政建設計畫大綱」起，歷年來頒訂的和方案，內容雖有增修，但始終不離「山地平地化」的總方向。(孫大川『夾縫中的族群建構』p.10)
- 国民党政府の先住民族政策は、日本時代とは異なり、指導(介入?)の面で積極的なアプローチをとっていた。1953年に台湾省政府が「促進山地行政建設計画要綱」を公布して以来、長年にわたって公布された計画やプログラムの内容は修正されてきたが、「山地平地化」という一般的な方向性に変わりはない。

同化

- 其中規定的條款，主要還是僅在經濟生活的改善、社會改革、政治納編的目標上。尤其嚴重的是：和文化發展有關的教育政策，其目的不在幫助原住民認識、整理自己的文化，反而是教導他們脫離自己的傳統，學習迅速地融入所謂的平地社會。這是典型的「同化」(assimilation)。(孫大川『夾縫中的族群建構』pp.10-11)
- この政策の規定は、主に経済生活の改善、社会改革、政治的統合に限定されている。特に深刻なのは、文化発展に関する教育方針が、先住民族の人々が自分たちの文化を理解し整理することを目的としておらず、むしろ伝統を捨て、いわゆる平地社会に早く溶け込むことを学ぶことを目的としていることである。これは「同化」の典型である。

先住民族に対するステレオタイプ

- 許多跡象顯示，台灣四十年來的進步、發展，並沒有幫助我們更進一步了解原住民的真實情況。一般來說，主流社會對原住民的印象總是停留在「落後」、「懶惰」、「散漫」、「酗酒」、「淫亂」、「沒有知識」、「沒有計畫」、「沒有時間觀念」，以及「純樸」、「老實」、「健壯」、「大眼睛」、「比較浪漫」、「比較自然」、「比較樂觀」、「有歌舞的才華」、「五官輪廓深」等等粗糙的認識上。這些不顧上下文的浮面評價，不論是正面或負面的，都構成大家彼此真實相遇的障礙。（孫大川『夾縫中的族群建構』p.52）
- 過去40年間の台湾の進歩と発展が、先住民族の実情をよりよく理解することに役立っていない兆候はたくさんある。一般に、主流社会の先住民族に対するイメージは、「後進的」、「怠惰」、「ルーズ」、「アルコール中毒」、「乱暴」、「知識がない」、「計画性がない」、「時間の概念がない」、「簡單純」、「誠実」、「頑丈」、「目が大きい」、「より口マンチック」、「より自然」、「より樂觀」、「歌とダンスの才能」、「特徵の深い輪郭」など常に粗い認識に基づいている。こうした表面的な評価は、肯定的でない否定的である。これで互いの眞の出会いを阻むものである。

「他者」としての原住民族？

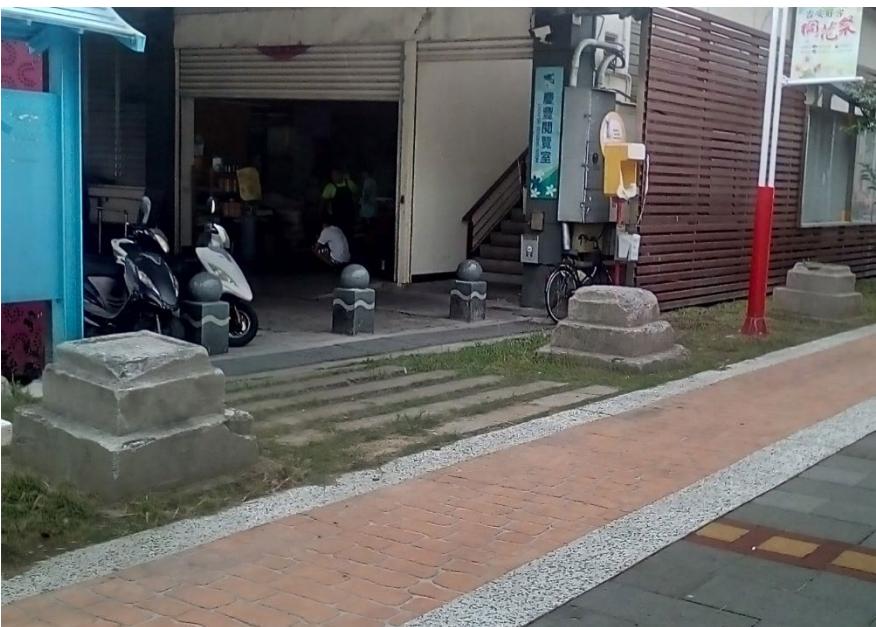
- 原住民族は、台湾の「私」であった。
- 「皇民化」や「平地化」などの同化政策により、先住民族の文化と言語が急激に失ってしまった。
- 「我」であった原住民族が、「他者」に差別化されている。
→ 台湾先住民族の「いま」は？

花蓮巡礼 (2018)

- 現在: 花蓮縣吉安鄉
- 日治時代: 吉野移民村

「拓地開村」という書かれた石碑があったが、実はここではかつて多くの先住民（アミ族）が住んでいて、「Cikasuan」（アミ語）という地名は漢字では「七脚川」と書かれていた。1908年にアミ族と日本の警察との間に衝突が起り、いわゆる「七脚川事件」でアミ族には数百人の死者が出て、そしてこの土地から追い出された。







知卡宣森林公園 (掩体壕)



花蓮阿美文化村





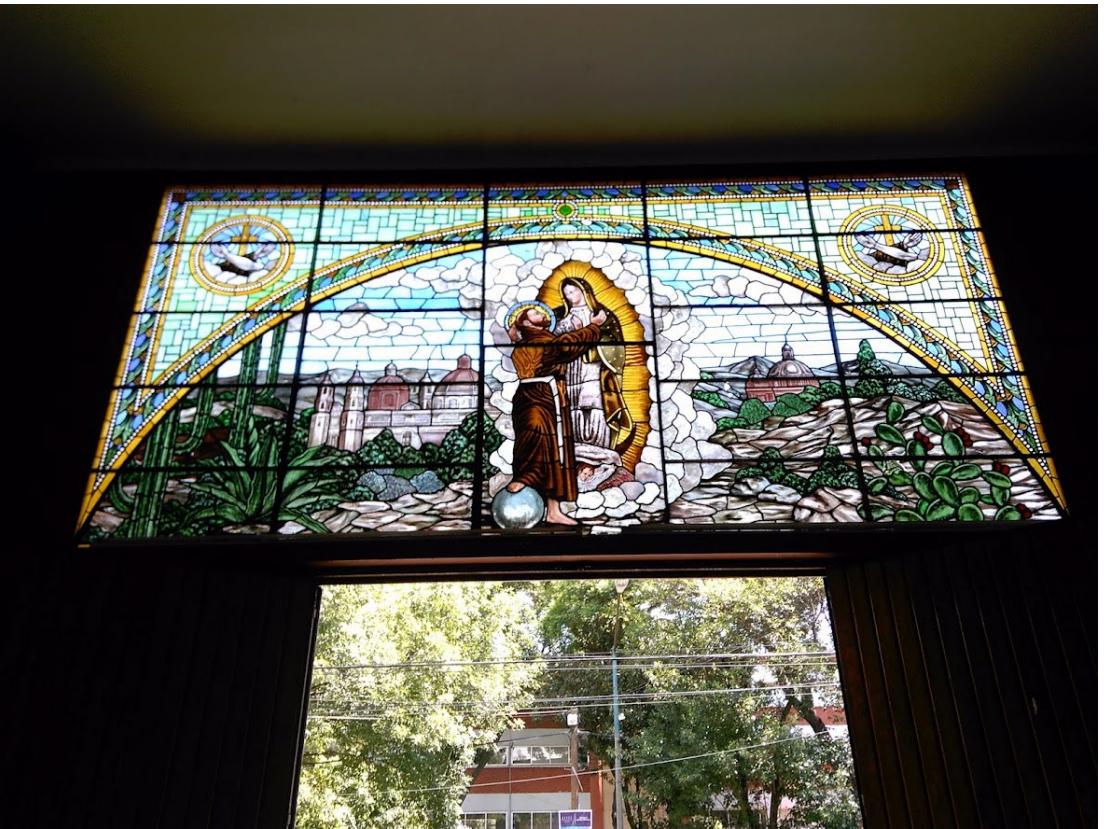


②メキシコ



著作権等の都合により、
画像を削除しました。

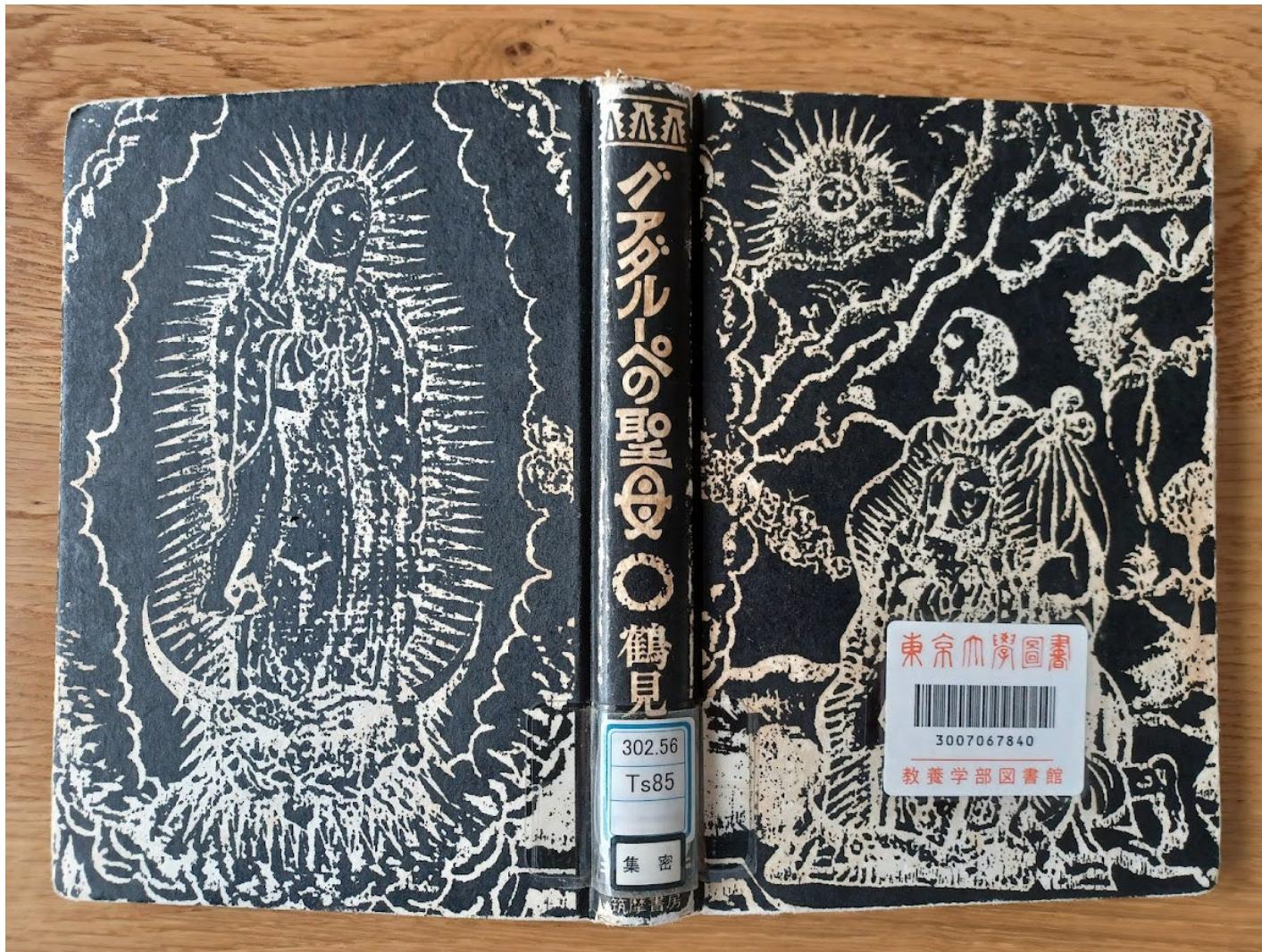
Seminario Internacional de Filosofía Japonesa
<http://pueaa.unam.mx/actividades/seminario-internacional-de-filosof%C3%ADA-japonesa>







鶴見俊輔『グアダルーペの聖母』



筑摩書房、1976年

(引用)

十二月十一日の夜、メキシコ・シティーの町はずれにあるグアダルーペの寺院に出かけた。メキシコについてしばらくたったばかりの一九七二年の年の暮のことである。

日本から来た留学生と一緒に、みな日本にいたころはスペイン語科なので、たよりになった。ただし、グアダルーペに行くのは、はじめてだという。

寺院は、たいへんな人出だった。寺の前の石だみは人をかきわけなければ歩けないが、それでも、ところどころにあき地があり、そこを舞台にして、奉納のおどりがおこなわれていた。

「中略】白人ではない貧しいメキシコ人たちをこのように集め、異教の踊りを奉納させる力をもつ、グアダルーペの聖母とは何か。

伝説によれば、コルテスがアステカの首都をおとし、一五二一年から十年ほどたったばかりの一五二一年の十一月九日のあけがた、ファン・ディエゴという中年のアステカ人が、彼の住んでいたクアウティトランの村から首都に向って歩いてゆく途中、ちょうど首都への入口にあたるあたりで、丘の上に、聖母の姿を見た。

このテベイヤカクといら丘には、一一六九年以來、ナウア族が町をつくりており、この町は一四八九年にアステカ人アクサヤカトルに征服された。ここにはその後、神々の母であるトナンチンをまつる寺院がたてられ、遠くから巡礼が来て、トナンチンに花と香料をささげた。

トナンチンという言葉は、ナウア語で「われらの母」を意味するという。この土地にいるわれらの母に対する数百年來の信仰が、スペイン人による征服と迫害とによる中断をへて、突然に、グアダルーペの聖母として、よみがえったのである。

グアダルーペは、アラビア語から来ており、その発音にふくまれるGとDの音は、ナウア語にはない。聖母ははじめファン・ディエゴにあらわれ、次に彼の伯父ファン・ベルナルディノにあらわれるのだが、とくにこの伯父のほうはスペイン語はまったく話せなかった。その伯父にむかって、聖母は自分の名前をあかして「永遠の処女グアダルーペの聖マリア」と呼べと言ったという。ここには何かの誤伝があったと考えられる。ザヴィユル・エスカラダ神父は、テクアトシューペ（それは石の蛇をもほろぼすであろうという意味）と言ったのを、後でスペイン人が、ききまちがって、自分たちの母国の守護聖者のグアダルーペと結びつけて、そのように呼びならわしたのだろうという説をたてている。いずれにしても、スペインとはもともと無関係な女神が、このメキシコの丘に出現したのであり、彼女の言ったことが、スペインの習慣とむすびつけられて、この伝説をつくりだしたのである。

著作権等の都合により、画像を削除しました。

Seminario Internacional de Filosofía Japonesa hacia el sí-mismo
ecológico-comunitario

<http://pueaa.unam.mx/en/activities/seminario-internacional-de-filosofia-japonesa-hacia-el-si-mismo-ecologico-comunitario>

Museo Nacional de Antropología (2019)



国立人類学博物館

- メキシコシティの国立人類学博物館に、人類がアフリカから世界各地に移り住み、やがてアジア大陸経由アメリカに渡來したという展示をはじめ、マヤ文明・太陽信仰・メキシコ各地の先住民族の展示があるが、一つ違和感を覚えたのは、先住民族のカトリック信仰についての展示だった。たとえヨーロッパ人を通して書き言葉の習得や生活の改善などができたとしても、自分の本来の文化を語る主体性がなくなってしまう葛藤があると思われる。



「壁」

- ・メキシコシティ行きの飛行機の窓から、星空を見上げたり、名も知らない街の夜景を眺めたりしながら、「壁」のことを想像してみた。おそらくアメリカとメキシコの国境のどこかで、高い壁を越えようとするキャラバンすなわち中米の移民たちがいる。しかし、そもそも壁の北側にも「よその国」からの移民たちが大勢いたはずである。アメリカ大陸の先住民族の視点から見れば、ヨーロッパの人々こそ移住者である。いな、彼らはむしろ植民者と呼ばれるべきである。植民者の暴力行使によって、先住民族が酷い目に遭ったことは言うまでもない。自らの生き方・言語・宗教・思想・土地・財産などすべてが奪われたことは想像を絶するものに違いないが、残念ながらこういった事態は未だに世界各地で起きている。

巡礼すること

- ヨーロッパ人の先住民族に対する偏見や差別はあるが、先住民族もヨーロッパ人も同じく神の子たちだというエピソードがある。1531年12月に、インディゴ（中南米の先住民）のファン・ディエゴという者がテペヤックという丘で、あるインディゴ女性に「あたしは聖母マリアだ。ここに教会を建てよ。」と言われた。これが聖母の出現と認められ、1537年にローマ教皇はインディオも人間として扱われるべきだと令した。テペヤックの丘の近くにグアダルーペ寺院が建てられたが、この寺院は年間約2千万人が巡礼するほど、世界で最も巡礼者の多い聖地の一つである。
聖地といえば、メキシコシティの近郊にあるテオティワカンという遺跡である。そこには太陽のピラミッドと月のピラミッドがあり、ヨーロッパの植民者がやってくる前に古代文明が存在した証である。

③ 日本

- はじめて北海道を訪れたのは、二〇〇一年の札幌雪まつりの頃だった。それから、小樽、網走、釧路、函館、登別、旭川、稚内、宗谷はもちろん、利尻島へも渡った。一番印象深かったのは、漢字のない「トマム」という地名であった。アイヌ語であるtomamは湿原という意味があり、漢字のある地名でもアイヌ語によるものが多い。『遠野物語』には「遠野郷のトモダチはもとアイヌ語の湖という語より出でたるなるべし」という一節もあり、東北地方の猟師であるマタギたちが水のことを「ワッカ」というのも、アイヌ語のwakkaによるものである。



- アイヌに興味を持ったきっかけは、数年前に旭川市にある「川村力子ト記念館」を見学したことであった。川村兼一館長（二〇二一年二月にご逝去）とアイヌ語とアイヌ文化の継承問題について話すことができ、イヨマンテについての展示でも大変衝撃を受けた。



- ・金田一京助によれば、「所謂『熊祭』という有名な、やかましい行事も、人間の孤児を世話し、養う心持で、熊の赤児を養い育てて、十分大きくなった時に、『さあ、もう天の両親が待っているだろうから、御帰りなさい』と送る行事にはかならない」という。」

金田一京助採集並二訳『ユーカラ』岩波文庫、1977年、16頁



二風谷

- ・今回の最初の目的地は、「萱野茂二風谷アイヌ資料館」と「平取町立二風谷アイヌ文化博物館」であった。前者は「川村力子ト記念館」と同じく私設博物館であり、後者は町立アイヌ博物館である。萱野氏によると、アイヌ語に「ニ（立木とか薪）」と「タイ（森とか林）」という言葉があり、二風谷（にぶたに）は昔、うっそうたる密林だったという。ちなみにこの町は、**YouTube**「しとちゃんねる」でアイヌ文化を積極的に発信している関根摩耶さんの故郷でもある。



萱野茂二風谷アイヌ資料館



平取町立二風谷アイヌ文化博物館

白老

- 二風谷は豊かな山と川をもっているが、アイヌ民族は山奥の秘境で暮らすわけではない。次の目的地は、太平洋に面する白老町（しらおい）である。アイヌ語では「蛇の多いところ」という意味のようだが、二〇二〇年七月にはポロト湖（大きな沼）のほとりに民族共生象徴空間（愛称＝ウポポイ、国土交通省所管）がオープンした。**大勢で踊るという意味をもつウポポイの主な施設は、国立民族共生公園と慰霊施設である。**公園の中には、かつてアイヌ人が住んでいたチセ（家）やコタン（集落）を再現したものがあり、アイヌ音楽や伝統芸能を鑑賞することもできる。なお、慰霊施設はウポポイから約1,200m離れたところにある。



ウボポイ



国立アイヌ民族博物館

- また、ウポポイの敷地内に「国立アイヌ民族博物館」（文化庁所管）があり、「先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する」という理念を掲げている。今回は北京出身のスタッフの案内で、国立アイヌ民族博物館の展示をゆっくりみることができた。基本展示室では、「私たちのことば」「私たちの世界」「私たちの暮らし」「私たちの歴史」「私たちのしごと」「私たちの交流」という導入展示がある。感想としては、展示数は思ったより少ない。例えば、イヨマンテについての展示は、川村力子ト記念館のほうが詳しい。

「共生」を問う

- ・結局、「共生」とは何か。民族共生象徴空間の英語は「symbolic space for ethnic harmony」となっているが、共生が調和（harmony）だとすれば、この象徴空間はテーマパークとして整っているといえよう。しかし、先住民族としてアイヌ民族が大和民族と共に生きることがうまくできていなかった過去があり、同化政策や差別問題などで依然として厳しい状況におかれている。「共生」ということは、まさに「未来志向」の言葉であろう。これからアイヌ民族は、自分の土地で自らの言語を使って祖先から受け継いだ文化で生きる民族でなければならない。

- ウポポイを後にし
て、近くのアヨロ
海岸へ行ってみた。
そこには、「アフ
ンルパロ」（あの
世への入り口）と
いう聖地があるが、
カーナビやグーグ
ルマップを使って
もたどり着くこと
ができず、聖地巡
りは断念せざるを
得なかった。



しかし、よく考えてみれば、聖地を観光地化せず、聖域のままで守りながら抜くことが「共生」の本来のあり方だと思い至った。

まとめ

- 先住民族との共生
 - 台湾、メキシコ、日本
 - 文化村/祭り、博物館/教会、共生空間/聖地
- 箱物ではなく、現実社会
- 文化的復興、権利の回復